

令和4年度秋田県放課後児童支援員認定資格研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります)

県南会場

科目 ⑦特に配慮を必要とする子どもの理解

- ◆ 児童虐待は子どもの心身及び人格の形成に重大な影響を与え、家庭内におけるしつけとは明確な相違があることは昨今のメディア情報からも知っていましたが、より深く詳細や対処について学ぶことができました。親が頼りの子どもの立場を考えたときに、声に出して訴えることが出来ない、悲惨さを感じます。家庭の事情や環境を職員間で共有しつつ、子どもの心身の変化をよく観察し、疑われる場合は速やかに対応するよう心がけたいと思いました。
- ◆ 今回の研修で虐待という言葉を目にしました。活動している中で子どもたちの毎日の様子や行動を見逃さないよう職員同士のコミュニケーションを取りながら、見守っていきたいと思います。講師より、本県のひとり親家庭が多いという話を聞き、正直驚きました。それぞれの家庭にどんな事情があっても生まれ育った環境に左右されることの無いような社会であってほしいと思います。
- ◆ 児童虐待については、おおまかに知っているつもりでしたが、無視や暴言などのほか、子どもを意図的に病気にさせて育てている親もいるということを知り、ショックを受けました。虐待に気付いたときには、迅速な報告が必要であると強く感じました。そして、前にも学習したように守秘義務に努め、市区町村、学校、地域の人たちとの連携体制がとても大事だということ学びました。
- ◆ 「児童虐待」という言葉をよく耳にする世の中ですが、この言葉に講義で触れ、心が痛い思いでいっぱいでした。親から虐待を受けている子が放課後児童クラブの中にいたとすれば、私は何をしてその子を救ってあげられるのだろうかと思いで講義を聞かせてもらいました。また、子どもの貧困というあまり聞き慣れない言葉を聞き、世の中には健やかな成長に必要な生活環境や教育の機会が確保されない子どもがいると知り、自分がおかれている現状や周囲が当たり前ではないと心苦しく思いました。
- ◆ 児童虐待について詳しく学び、虐待の影響について知ることができました。心理的影響が成長に大きく影響してくることが分かりました。虐待を早期発見するには、周囲の目が大切なことを理解できました。放課後児童クラブでは日々の生活の中で、子どもや保護者が発する小さなサインを見逃さないために、日頃から様子を把握し、目配りと気配りを行い、子どもが自ら話ができるように信頼関係を築いていきたいと思ひます。